市民農園の需要構造に関する研究

徳島大学工学部　　定井　喜明
徳島大学工学部　　近藤　光男
徳島市役所　　○寺沢　　均

1．はじめに

わが国社会は、これから21世紀にかけて、高齢化および週休２日制の完全実施による余暇時間の増大によって、レクリエーション施設への需要は急増している。一方、都市地域でも休耕田や遊休農地が続出し、これらの空閑地の有効利用と都市計画的整序化が要求されている。そこで、都市地域の遊休農地を、健全な心身のレクリエーション活動の場として、自然と緑と土とのふれあいに飢えている都市住民に提供する市民農園は、国土の有効利用、高齢化社会への対応、さらに住民の交流・連帯の強化、子弟の情操・体験教育にも大きく貢献することになると判断される。本研究では、都市住民、特に地方中核都市の住民が、どの程度市民農園を望んでいるか、また、その規模・条件などの要望内容はなにかを、調査・研究したものである。

2．調査概要

調査対象都市としては身近な地方中核都市徳島市（昭和59年末人口、254,610人、面積 188.14 Km^2 ）を選んだが、周辺の10行政区は農村地帯となっているので、これを除き、市街地の13行政区を対象地域とした。この13行政区に居住する 64,909世帯、182,065人（いづれも昭和59年末現在）の約１％、1,750人を選挙人名簿から無作為抽出し、市民農園に関するアンケート調査を行った。

調査は昭和60年８月から９月にかけて、訪問配布・面接回収方式で行い、有効回収率 91.6%、有効サンプル数 1,603票を得た。アンケート調査の調査項目は、市民農園に関する13項目と調査対象者の個人属性の12項目の合計25項目であった。

3．分析結果

アンケート調査結果を単純集計した結果は、表－１に示すとおりである。

表－1　市民農園に関するアンケート調査の単純集計結果

項目	カテゴリー	割合(%)
園芸の実施状況	自分で実施	33.0
	家族が実施	21.0
	将来実施	29.6
	実施してない	16.4
	興味ない、その他	
農園の借用意志	是非借りたい	6.9
	借りたい	20.9
	将来借りたい	15.5
	ない、わからない	56.7
	その他	
農園の広さ	10坪程度	36.6
	20坪程度	26.1
	30坪程度	22.3
	60坪程度以上	15.0
	その他	
農園の借料	年100円／坪以下	20.5
同前	年300円／坪程度	27.3
	年500円／坪程度	27.0
	年1000円／坪以上	25.2
	その他	
農園の位置	徳島市内	87.7
	市外	12.3
農園までの足	自家用自動車	46.0
	バイク	9.2
	自転車	31.1
	徒歩	10.9
	バス、タクシー、その他	2.8
農園までの許容所要時間	15分未満	39.1
	15分～30分未満	46.4
	30分以上	14.5
農園利用の頻度	週に２～３回以上	44.7
	週に１回程度	42.3
	月に２～３回以下	13.0
農園の利用人数（一度に）	１人	20.2
	夫婦２人	40.1
	子供づれで２人	12.2
	家族３人以上	27.5
	その他	
農園の賃貸契約期間	１年位	20.8
	３年位	52.7
	５年位	19.3
	10年位以上、その他	7.2
農園で作るもの（上位三つの計）	野菜	94.5
	草花	66.3
	花木	43.2
同前	果樹	44.2
	薬草、庭木	30.1
	その他	
農園の付帯施設	食事のできる小屋	17.3
	道具小屋	56.6
	温室、その他	26.1
農園の借用目的	野菜など趣味と実益	50.7
	健全なレクリエーション	15.4
	子供の知識・情操教育	9.4
	生産・自然の体験	12.9
	有機農業の実験	6.9
	国土の有効利用など	4.7

(注) n＝1603，実施昭和60年８月～９月

この表－１からわかるとおり、市民農園を借りたい人（「是非借りたい」6.9%と「借りたい」20.9%との合計）は、実に 27.8%に達し、それに将来借りたい人 15.5%を加えると、43.3%と半数近くになることがわかった。従って、徳島市の市街地でも実に約18,000世帯が、現在市民農園の潜在需要者であることがわかった。

次に、市民農園の借用意志の構造特性を知るため、この借用意志を「借りたい」、「将来借りたい」、「わからない、借りる意志はない」に３区分し、他のアンケート調査項目の24項目とのクロス集計分析（χ^2検定）を行った。そして、0.5%の有意水準で有意な項目のうち、借用意志の３区分ごとに有意に多い項目・カテゴリーを示したのが表－２である。

この表－２をみればわかるように、市民農園を「借りたい」という27.8%の人々には、現在すでに「園芸を自分がやっている」か、「園芸を家族の誰れかがやっている」人が多いことがわかる。また、借用する「市民農園の広さは20坪程度」、「借用料は年坪 300円程度」、「市民農園の借用契約期間は５年位」という人が多いことがわかる。さらに、これらの人々には、「趣味は園芸など」、「年令40～49才」、自宅の「家の庭面積は10～20坪」という人が多く、もし市民農園が借りられたら農園までは「自転車」か「バイク」で行き、「週に２～３回以上」は農園を利用することになる人が多いといえる。特に、農園へ行く程度は、「毎日か、週に２～３回」という人がきわめて多いといえることが判明した。

また、市民農園を「将来借りたい」という15.5%の人には、表－２からわかるように、現在「園芸を実施してないが、将来やりたい」という人、「年令40～59才」、「総収入が年300～500万円程度」という人が多く、借用する市民農園の位置は、「徳島市外」と遠くて、自動車で行って「30分以上」かかってもかまわないという人が多いといえる。そして、これら借りた市民農園には、主として「夫婦２人」で行って利用する人が多いといえる。

さらに、「わからない、借りる意志のない」という人には、表－２からわかるように「年令20～39才」、および「年令60才以上」、「総収入年300万円未満」および「無回答」という人が多いといえる。

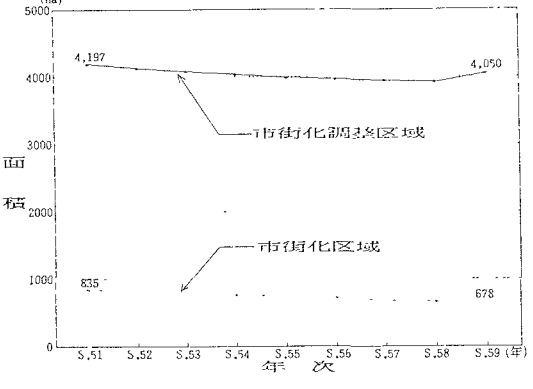
次に、徳島市に市民農園として供給可能な農地がどれ位あるか、また、その推移はどうであるかを調査した結果、図－１が得られた。この図－１からわかるように、徳島市内における農地面積は年々減少してきているが、昭和59年においても市街化区域内に農地が678ha残されており、市街化区域面積3,808haの18.3%を占めているのが現状である。そこで、これらの農地を供給源として、行政が仲介にはいり、市民農園を提供すれば、市街化区域内農地の有効利用と都市計画的土地利用の整序化に大きく貢献できるものと考えられる。

表－２ 市民農園に対する借用意志別特性一覧表

借用意志	有意に多い項目	カテゴリー
借りたい 27.8%	園芸の実施状況	現在自らやっている
	園芸の実施状況	現在家族がやっている
	農園の広さ	20坪程度
	農園の借料	年300円／坪程度
	農園までの足	バイク
	農園までの足	自転車
	農園の利用頻度	週に２～３回以上
	農園の賃貸契約期間	５年
	趣味	園芸など
	年齢	40～49才
	家の庭面積	10～20坪
将来借りたい 15.5%	園芸の実施状況	将来やりたい
	農園の位置	徳島市外
	農園までの許容所要時間	30分以上
	農園の利用人数	夫婦２人
	年齢	40～49才
	年齢	50～59才
	総収入	年300～500万円
わからない借りる意志はない 56.7%	農園の広さ	60坪以上
	農園の広さ	10坪程度
	農園の借料	年100円／坪以下
	農園の借料	年1000円／坪以上、その他
	農園の位置	徳島市外
	農園までの足	バス、タクシー、徒歩
	農園までの許容所要時間	30分以上
	農園の利用頻度	月に２～３回以下
	農園の利用人数	１人
	農園の利用人数	子供と２人づれ
	農園の契約期間	１年
	趣味	特になし
	農園で作るもの	無回答、その他
	年齢	20～39才
	年齢	60才以上
	総収入	300万円未満
	総収入	無回答

(注) アンダーラインの項目・カテゴリーは、極めて高水準で有意

図－１ 徳島市内における農地面積の推移



４．おわりに

現在、都市における公園・遊園地の不足や緑と自然と土にふれる機会の欠乏を考えるとき、市民農園のニーズはきわめて強いばかりか、市民農園は社会的価値財として都市住民の厚生福祉の向上と交流による連帯感の育成に大きく貢献するものと考えられる。従って、市民農園の普及・推進に公的資金を投入しても社会的公正・公平に反しないばかりか、その効果から考えると、むしろ積極的に公的資金による補助で拡大・発展をはかるべきものと判断される。ただし、公的補助を正当化するためには、すべての市民が潜在利用者でなければならないから、市民農園の利用者は公募抽選で決定する必要があろう。今後さらに、市民農園用地として地主側の供給条件などについて調査し、具体的な市民農園の普及・推進策を研究する予定である。